

平成29年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1492300163	事業の開始年月日	平成26年4月1日
		指定年月日	平成26年4月1日
法人名	株式会社 美咲		
事業所名	グループホームみさき前川		
所在地	(256-0813) 神奈川県小田原市前川540-5		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	18 名
		ユニット数	2 ユニット
自己評価作成日	平成29年10月23日	評価結果 市町村受理日	平成30年4月25日

基本情報リンク先 <http://www.wam.go.jp/wamappl/hyoka/003hyoka/hyokanri.nsf/pSearch3?Open>

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

毎年、季節の行事には職員総出となり力をいれてます。今年の夏祭りでは、ご家族の方々も参加され催しや御食事を楽しまれました。敬老会では、地域ボランティアによる演奏会があり、懐かしの歌を唄われ沢山の笑顔が見受けられました。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鶴沼橋1-2-7 湘南リハウスビル3階		
訪問調査日	平成29年11月16日	評価機関 評価決定日	平成30年1月19日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

事業所は、JR国府津駅から国道をバスで4停留所、下車し歩いて3分ほど坂道を上り、南側の相模湾や西の箱根連山・伊豆半島を望む風光明媚な住宅街の中にあります。相模原市内に同法人のグループホームが2ヶ所あります。

<優れている点>

法人の理念を基に、昨年は事業所の理念を職員同士で話し合い「利用者様が自分らしく生活するために自己決定できるように支援する」を作成して事務所に掲示しています。今年度はそれを実践している中で、職員の意識も変わり、利用者の思いに沿った支援の工夫や配慮をしながら共に過ごしています。「離設対応マニュアル」を作成し、防止と発生時対応に分け、具体策を立てて緊急に備えています。事業所の外には防犯カメラを設置し、事務所で見守りしています。

<工夫点>

事業所の理念の実践として「パンケーキのトッピング」を幾つか用意し、その中から選んで利用者が好きな物を選べるようにしています。また入浴後の「衣類」を自分のタンスから選び、着たい物に着替えるなど、自己決定をするための工夫をしています。一人ひとりの居室入口には、利用者の似顔絵や顔を見立てたフェルトマスコット、写真を装飾したプレートがさげられ、自分の居室が分かるようにしたり、一人ひとり好みの布地を使って「のれん」を下げ、利用者をさりげなく見守っています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホームみさき前川
ユニット名	1 ユニット

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えています。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	社内目に入る所に理念を貼っており、実践できるよう職員どうし、報告・連絡・相談を随時行っている。	運営法人の理念を基に、1・2階の職員で話し合い、事業所独自の理念「利用者様が自分らしく生活するために自己決定できるよう支援」を作成しています。職員の意識の変化が見られ、利用者の意思を尊重したケアの工夫や配慮が日常生活で実践されています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	町内でのお祭りを見に行ったり、自治会の敬老会等に参加する。また、地域の公共の公園や神社に散歩し、ご近所の方々とふれあう事も楽しみのひとつとしています。	自治会には未加入ですが、オーナーから自治会の祭りや敬老会への参加の呼びかけがあります。近所の保育園児が母の日に来訪してカーネーションを手渡し、歌を披露しています。また行事にはボランティアが演奏してくれ、利用者も歌と一緒に唄い、交流を楽しんでいます。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	ボランティア活動の受け入れや、地元中学生の職業体験受け入れを積極的に行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	施設での取組みを報告しています。また、事故等があった場合は、どうしたら防げるか、どの様にしていけば良いのかなど、職員で話し合い会議でも意見交換を行っている。	会議には、地主オーナー・民生委員・地域包括センター職員・家族が出席です。事故報告の薬落・転倒などは民生委員や地域包括センター職員から具体的なアドバイスを受け、支援に繋がっています。家族へ配信する「みさき新聞」を会議出席者にも配布しています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	主に管理者が行っている。生活保護者の方は、市担当者と密に連絡を取りあう。研修案内があれば、職員に情報共有を行っている。	施設利用者の関わりで市の担当課と連携をとっています。市グループホーム連絡会のチームとしてオレンジのたすきリレーをする「ラン伴」に参加し、利用者も応援しています。市から研修案内が届くと職員に参加を促しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	施設で研修を行ない、全職員が認識できるように努めています。	身体拘束研修は内部研修として年2回開催し、全員がどちらかに出席して研修内容の理解とケアの質の向上に努めています。実践例では幻視・幻聴の問題行動のある人への安心できる言葉かけや、本人が納得できる具体的な支援、配慮ある介助方法と情報の共有をしています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	施設研修にて、皆学ぶ機会を得ている。また、職員の心身や入所者の心身に目を配りながら、日々対応とケアに努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	制度は知っているが活用場がない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約に携わるのは管理者の為、全職員には周知されていない部分もある。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご家族来方時には、意見・要望等を聞き、要望等あった場合には管理者に報告して、話し合う機会を設けている。	家族会はありませんが、夏祭りには家族が参加し、家族同士で歓談したり職員との交流の場となり、事業所への要望を聞く機会ともなっています。外食や外出の機会などの要望を受けて、回転寿司やドライブなど、行事の中で実施しています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	業務申し送り時などに、職員の意見を聞く。日々気づいた事は報告するようにしている。	職員は、日々のケアを通して気づいたことを管理者やユニットリーダーに報告し、朝・夕の申し送りで情報を共有しています。退院後の食事内容の配慮の仕方について具体的に明示し、支援に努めています。	理念はより良いケアを目指していますが職員の就業環境が厳しく、会議を開く時間配分ができていません。全体会議やユニット会議、カンファレンス会議などを開催するための工夫も期待されます。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	毎月、管理者会議があり施設報告をさせていただいている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	毎月、施設研修を行ないスキルアップを目指している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	外部の研修などの情報を共有し取り組んでいる。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	ご新規の入所者の情報を共有し、入所者の言葉に耳を傾け、行動にも目を配りどんな時にもコミュニケーションがはかれるよう努力している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	アセスメントを基に対応を行ない、必要な事があればご家族に相談を行なう。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入所相談時に、ご家族とご本人の要望を聞きサービス向上に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	ご自身で出来る事と出来ない事を見極め、自立支援を心掛ける。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	必要時に連絡をし、共通認識として情報は申し送っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	昔からの行きつけの場所に行かれている入所者に対して、継続的な交流が出来るよう働きかけている。	家族の訪問以外は利用者の馴染みの人も高齢化してきています。新聞広告に掲載された昔の地元周辺の地図や写真を見ながら話題を提供しています。また昔の共通する思い出の歌や、物を使用したレクリエーションで楽しい時間となるように努めています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	コミュニケーションが出来ない、又は取りづらい入所者にかんしては、職員が間に入り円滑なコミュニケーションが取れるよう配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	事例はないですが、退去後も必要であれば対応はします。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご本人の意向を直接会話の中で聞く。意思疎通困難な入所者は、ご家族やケアマネージャーより情報を得ています。	日々の会話の中で”食”の話題が多く、ビールが飲みたい場合はノンアルコールビールを用意したり、刺身が食べたい場合は回転寿司へ行っています。また、メイクしたり訪問リハビリを受けています。困難な場合は関心のある言葉かけをして表情から読み取るようにしています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	今までどのような生活を送られてきたのか、知り得る範囲で情報を収集しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	申し送りや記録を通して現状把握に努めている。また、言葉や行動を見ながらその日に適した対応に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ご本人のニーズに合わせ、ご本人の希望に基づいて計画を作成している。職員は、日々変化する入所者の状態を観察し、計画書に反映させてもらえるよう報告している。	計画作成者は3ヶ月ごとにアセスメントを基にしたケアプランの見直しをしています。介護記録や居室担当職員・ユニットリーダーとカンファレンスをして作成しています。本人に説明して同意を得ています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	生活記録では、どんなに小さな変化でも記入し、情報の共有とプラン見直しに活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	ご家族の要望で通院の介助等、必要な支援には柔軟に対応出来るよう心掛けている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域の幼稚園児との交流。小学校での敬老会に参加出来るよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	ご本人、ご家族の意向を伺い、希望される医療機関へ医療を受けられるよう支援している。	協力医により月2回の内科、週1回の歯科往診の他、家族の協力を得て、かかりつけ医に通院する利用者もいます。「往診前情報」で受診前に気になる点を医師に連絡し、診察結果や薬の記録などを得て「医療個人ファイル」で職員間で共有しています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	当施設に看護師はいないが、入所者の身体状況に変化があった場合は、速やかに協力医療機関に連絡し支持を仰ぐよう努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご本人の状況がわかる様介護サマリーを作成し情報をつたえている。また、ご家族と病院との情報交換に心掛けています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	ご家族・医師・職員により、ご家族の意向を確認しながら対応の方針を共有し、支援を行なっている。	入居時に重度化した場合の方針を確認し同意を得ています。看取り経験もあります。その際は医師より病状や対処の説明をし、家族と話し合いながら意向を確認し、職員も支援にあたっています。支援や心のケアの必要性も振り返り学んでいます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	緊急時の対応には、マニュアルにて全職員が周知出来るようにしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	消防署の協力で避難訓練は定期的の実施している。災害時の連絡方法・消火器の使い方・避難経路の確認を行っている。	消防署立ち会いの下、年2回の昼、夜想定での避難訓練を行っています。職員は利用者を背負って避難するなど、歩行可能・困難者の移動方法を確認しながら行っています。食料の備蓄は期限の確認をしながら状況体験を兼ね試食し、次に備えています。	災害を想定し、備蓄品の安定した確保と定期的に確認の出来る工夫をして、災害時をしのげる体制づくりと地域の協力体制を築くことも期待されます。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	一人一人に適した声掛けや対応に努めている。	理念の中にも掲げられている、自分らしく生活するために自己決定をする支援の工夫をしています。パンケーキのトッピングを幾つか用意して、好きな物を選んでもらったり、入浴後着たい衣類をタンスから選んでいます。状況に応じた言葉かけに配慮をしています	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	言葉の中に疑問や・質問を作り、入所者の言葉を引き出すようにしている。ご希望によってご家族に伝えている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	時に困難な事もあるが、ご本人の希望に添えるよう心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	イベント時や外出時はお化粧を行なう事もある。定期的に訪問理容でカットを行ない、希望があれば白髪染めも行なう。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	ADLの低下により調理はされないが、準備や片付けを一緒に行なっている。	敬老会で弁当を作ったり、誕生日では手づくりケーキを作り、トッピングを一緒に楽しんでいます。食べたい物を聞いたり、楽しみメニューを取入れています。出来る利用者はテーブルや食器拭きをしています。職員も一緒に食卓を囲んでいます。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	個々の健康状態に応じて、摂取量を考慮し把握に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後、口腔ケアを実施。入所者によっては仕上げ磨きを行なう。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	一人ひとりの排泄パターンを把握し、誘導・声掛け・見守りを支援している。	「生活記録」で排泄状況を職員間で共有しています。排泄のしぐさや一人ひとりのパターンを把握し、出来るだけトイレでの排泄を支援しています。夜間は目覚めとふらつきなどの安全に配慮し、パッドの居室交換としています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	排便の周期を把握し、腹部マッサージや処方薬を使用し排便を促す。必要であれば主治医に相談し、便秘予防に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	準備を一緒に行なったり、入浴中に会話を楽しんでもらいリラックス出来るよう心がけている。	利用者の希望を聞き週2～3回の入浴を支援しています。菖蒲湯・ゆず湯や入浴剤を入れて楽しんでいます。入浴時は利用者と会話を大切にしており、昔話などの会話が弾み、聞いたことを「生活記録」に残して職員間で共有しています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	お昼寝をしたり、又は必要な入所者に対しお休み頂けるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	入所者に合わせて形状の変更・服薬ゼリーの使用等、個々の状態にあわせ服薬援助を行なっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	その方が得意な事や、出来る事をやって頂き達成感が持てるよう支援をしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	全ての入所者ではないが、ご家族・ご本人の希望により外出支援を行なう。	天気の良い日は、希望を聞いてその日の状況に合わせた散歩コースを選び出掛けています。地域の「敬老会」に参加したり、5月祭りの神輿見学・箱根駅伝の応援をしています。家族の協力で家族旅行や自宅に帰省する利用者もいます。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	ご本人で管理できる方はおらず、ご家族にて管理されえている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話をかけた後、手紙を書ける入所者はおらず、その様なやり取りは殆どない。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	四季の飾りつけや、イベント時の飾りつけを工夫し季節感をだしている。	共有空間は明るく、清潔に保たれています。利用者一人ひとりの似顔絵・習字・行事ごとの写真などが貼られていて、なかでも壁一面に紅葉した葉っぱと遊ぶ動物の切り絵は利用者を楽しませています。トイレは人感センサーです。屋外に防犯カメラを設置し、見守りもしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	自身で気の合った入所者の所へ行かれ会話を楽しまれたり、ソファで休まれる方など様々です。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	自宅で使用されていた物や、写真や思い出の品を置かれるなど、思い出の居室にされ過ごせれている。	それぞれの居室入口に似顔絵・顔を見立てたフェルトマスコット・顔写真を装飾したプレートなどが下げられています。室内はエアコン・ベッドが備えられ、馴染みのタンス・棚などが置かれています。塗り絵や折り紙、誕生カードが貼られています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	目の不自由入所者は、自身の席からどちらに動けばトイレがあるかわかる様席を配置し、自立できるよう工夫をしている。		

事業所名	グループホームみさき前川
ユニット名	2 ユニット

V アウトカム項目	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者の
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいの
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいの
	<input type="radio"/> 4, ほとんど掴んでいない
57 利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/> 1, 毎日ある
	<input type="radio"/> 2, 数日に1回程度ある
	<input type="radio"/> 3, たまにある
	<input type="radio"/> 4, ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない

63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族と
	<input type="radio"/> 2, 家族の2/3くらいと
	<input type="radio"/> 3, 家族の1/3くらいと
	<input type="radio"/> 4, ほとんどできていない
64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ毎日のように
	<input type="radio"/> 2, 数日に1回程度ある
	<input type="radio"/> 3, たまに
	<input type="radio"/> 4, ほとんどない
65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えています。 (参考項目：4)	<input type="radio"/> 1, 大いに増えている
	<input type="radio"/> 2, 少しずつ増えている
	<input type="radio"/> 3, あまり増えていない
	<input type="radio"/> 4, 全くいない
66 職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての職員が
	<input type="radio"/> 2, 職員の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 職員の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族等が
	<input type="radio"/> 2, 家族等の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 家族等の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	事務所内に理念を設置している。それに沿って支援を行なっている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	挨拶はしっかりと行っている。また、入所者も外出時に挨拶を交わしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	夏祭り等の行事では、入所者とそのご家族を招き交流を図る。廊下には写真展示し、生活の様子を紹介する。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	会議は定期的に行なっている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	主に管理者が連絡を行なっている。何かあれば、報告・相談を行う。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	理解はしているが、玄関の施錠解除まではできていない。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	施設研修を行ない、虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	知っているが、活用は出来ていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	管理者対応の為、職員は周知していない。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご意見・苦情等あれば、直ぐにでも改善出来るよう管理者と連絡を取り合う。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員の意見や提案があれば、管理者より代表者に報告がいつている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員が働けるよう、管理者より指示を仰ぎ終業に努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	施設研修の他に、外部での研修も情報共有している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	グループホーム連絡会に加入している。研修もあるので、交流の機会がある。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	傾聴し会話の中から引き出している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	アセスメントを基に対応を行う。必要であればご家族にも相談させて頂く。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	必要とするサービスを見極め対応に努める。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	出来るところは一緒に行ない、暮らしを共にする者同士の関係を築けるよう努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	毎月、手紙にて日々の様子を伝えている。また、来所時には居室へ案内し家族との時間を過ごして頂く。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	馴染みの場合は難しいが、人との関わりが途切れないよう支援を行なう。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	席の配置に工夫をし、時には職員が間に入りコミュニケーションが図れるよう支援を行う。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	事例はないが、必要であれば相談等行ないたい。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	会話の中から引き出せたらと思い、入所者との会話やコミュニケーションを大事にしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	アセスメントを基に情報を把握。新たな情報があれば、随時書き足している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	細かく記録に残し、職員同士で申し送りも行ない、現状の把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	定期的なアセスメントを行ない、必要に応じて見直しを図る。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	細かなところでも変化は報告・相談し入所者に合った計画にしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	ご本人やご家族の状況に応じ対応。その時々により取り組みをかえている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	ご本人が心身の力を発揮しながら、お散歩に行ったりと楽しまれている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	ご本人とご家族の希望により主治医を決定している。適切な医療が受けられるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	職員は、入所者に異変等あれば速やかに報告し、指示を仰いでいる。入所者が適切な医療や看護が受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	施設での情報や介護サマリー提供し、安心して医療が受けられるよう支援している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	看取りが近くなってきた場合は、ご本人・ご家族・主治医を交えてムシテラを行なう。看取りの同意を得る。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	フローチャートをステーション内に貼り、特変時に備えている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	消防署により訓練し災害時に備えている。他、研修にて共通認識し消火器の場所を把握している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	その時、その場所に応じた言葉に配慮し対応している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	選択出来るよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	時に困難な時もあるが、その方らしい暮らしをその日を過ごせるように心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	入浴後の服選びが出来る入所者は決めて頂き、自己決定の難しい入所者には、職員と一緒にこなう。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	口腔体操等、入所者と職員と一緒に出来ない、下膳の出来る入所者には行っていただく。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事量や水分量が一日を通して確認が出来るよう、記録に残している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後、歯磨きを徹底している。状態を悪くしない為にも訪問歯科も受け入れている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	出来るだけトイレでの排泄を心掛けている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	水分補給や体操・肛門マッサージを心掛けている。必要あれば主治医に相談も行う。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	一人ひとりの体調を把握し、拒否のある入所者には無理強いせず、タイミングや声掛けの工夫をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	疲労感・傾眠等が見受けられる際には、居室での休息を勧める。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	個人ファイルに薬剤情報があり、いつでも閲覧できる。服薬ミスのないよう、職員間でダブルチェックを行なっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	以前に比べて外出や散歩が減ってきたが、室内でのレクや体操を楽しみにされている様子。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	ご希望される入所者には、外食やざる菊をみに出掛ける。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	お金の管理はご家族様に行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	訴えのある入所者には支援を行なっている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	四季折々の壁飾りを行なっている。時々、入所者の作品を飾ることもある。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	入所者同士が席を移動し、歓談する姿が見られます。また、一人になりたい時は自身の居室へ行き、テレビを観たりお昼寝をして過ごされる。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	転倒に配慮して家具等の配置を入所者と一緒に決める。自身の居室がわかるように、自宅で使用していたのれんをドアに垂らす。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	一人ひとりの残存機能を維持させるよう向上に向けて支援しています。		

平成29年度

目標達成計画

事業所名 グループホームみさき前川

作成日： 平成 30年 4月 20日

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1		職員の終業環境が厳しく、職員会議を開くことが難しい。業務申し送り時だけでは情報もうまく行きわたらない。	定期的に職員会議を開催し、意見交換や情報の共有を図る。	職員対象のご意見箱の設置。口では言いづらい事や、意見・報告等を自由に投函していただき、会議に反映されるよう実施。	2ヶ月
2		災害を想定し、十分な備蓄品の確保と定期的に確認の出来る方法。	何がどのくらい必要かリスト作成。それをもとに予算案の作成。	予算案をもとに、本社へ報告・相談し資金にて購入。非常食については、賞味期限が把握できるよう表の作成。保管場所も全職員に周知し、再度、災害時の連絡方法・避難場所の再確認を行う。	1ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月